



スタントマンが発生件数の多い自転車事故を再現

交通安全スタントで自転車事故予防呼びかける

11月16日二ツ井中学校の全校生徒127人と、能代高校定時制課程二ツ井キャンパスの生徒43人を対象に自転車交通安全教室を開催しました。

安全教室では、危険な自転車走行に伴う交通事故の恐怖を直視させ、その衝撃や危険性をスタントマンが実演し疑似体験させることで生徒達に考えさせる機会を与えるスケアード・ストリート教育技法を用いて行われ、スタントマンチームが、自転車に乗りながら車との接触や、傘や携帯電話を使用しながらの運転による事故などを再現。大きな衝撃音と想像以上の衝撃に生徒らは、思わず悲鳴を上げていました。

二ツ井中学校の桂田涼翔さん(2年)は「改めて安全な自転車運転の必要性を学べた。これから気を付けて自転車を運転したい。」と感想を述べてくれました。

今年産米栽培の反省点を糧に栽培技術研鑽

稲作生産者を対象に、令和3年産米の施肥設計や水管理など栽培技術の反省点と来年度米のレベルアップを目的に11月16日と17日に、「肥料・農業レバレッジアップ研究会」を、能代市工業団地交流会館で開催するとおおよそ50人が参加して、県山本地域振興局農業振興普及課、メーカ担当者の説明を受けながら来年度米の栽培管理に理解を深めました。

経済課課長は「今年の高水温条件が続き、青未熟は少なかつたものの、カメムシの発生量が多かつたことや圃場の水不足が原因で稲作栽培には大変苦慮した年になったと思う。来年度以降も、異常気象に対応した栽培管理について、徹底した施肥設計を組んでもらうため、TAC職員一丸となって生産者をサポートしていきたい。」と意気込みます。



参加者らは熱心にメモを取りながら聴講し理解を深めた

来年度、盆需要期の出荷量増を目指す

りんどう部会(桂田浩樹部会長)は11月26日に、実績検討会を開催すると、部会員や市場関係者など25人が参加して、今年度の販売実績や品種別の販売単価の推移など協議しました。

桂田部会長は「昨年から続くコロナ禍の影響や夏場の異常気象により「白神りんどう」の出荷本数にも影響が出て厳しいシーズンとなった。今後、JAや市場ともより密に連携を図って共に頑張りましょう。」とあいさつ。

JAからは、「近年「白神りんどう」としての価格が安定して来た。栽培技術講習会などで収穫量を増やす技術を習得して行きましょう。」と呼びかけました。

また、次年度から活用を計画するオリジナルポスター案3点が示されるなど、「白神りんどう」の知名度向上対策などについても協議がなされました。



検討会に提出されたポスター一校正案。完成をお楽しみに!

野焼き!不法投棄!絶対ダメ!!

農家組合員から廃棄用プラスチック等を回収し、JAが代行処理申請を行う「農業用廃プラスチック収集」を11月30日に、ドライブスルー方式で管内3区域の各営農センター敷地内に一斉に行われました。

肥料袋や水稲の苗箱などを回収し総量は昨年同期よりも約2トン多い10トンに達しました。この農業用廃プラスチック収集は、環境保全と不法投棄防止を目的に毎年定期的に年3回行っており、

廃資材を持ち込んだ女性農家組合員からは「野焼きするわけにいかないし、定期的に実施してもスッキリしてこれで正月が迎えられる。」と話してくれました。

今年度最後の農業用廃プラスチック収集は令和4年3月に実施を計画しており、後日全組合員に周知することとしています。



廃プラを手際よく荷下ろしする職員

JAバンクあきた店舗美粧化コンテスト



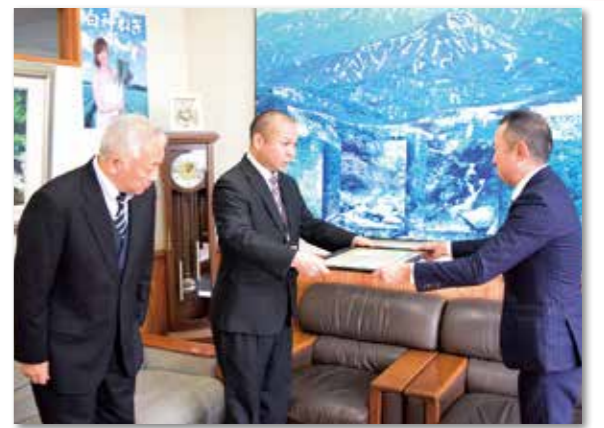
JAあきた白神 初の快挙!

JAあきた白神『初V』!

JAバンクあきたが実施した第9回「JAバンクあきたアカデミー窓口コンテスト」店舗美粧化部門で、店舗内にJA行事にまつわる写真などの掲示物が綺麗に展示されているなど、地域に密着している様子が特に伺えたことなどが評価され全県JA店舗の中から二ツ井支店が最優秀賞に選ばれました。

11月24日には農林中央金庫秋田支店の安田雄幸支店長から秋元支店長に表彰状が手渡されると、秋元支店長は「支店職員の常日頃からの明るい笑顔と声掛け活動が、店舗内の雰囲気明るくし、今回の受賞につながったと確信している。今後より一層地域に親しまれ誰からも愛される店舗作りを努めていきたい。」と笑顔。

今回の受賞を契機に、二ツ井支店のみならず全事業所連携しながら「JAあきた白神らしさ」を意識した店舗づくりに取り組んで参ります!

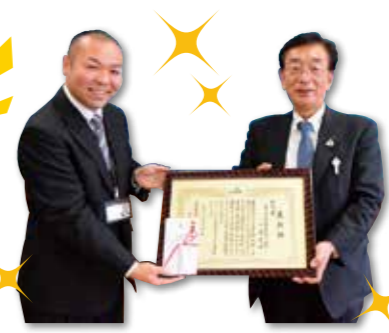


農林中央金庫秋田支店長(右)から表彰を受ける伊藤常務(左)と秋元支店長(中)

JA共済窓口ボードコンでも!



「特別賞」を受賞した二ツ井支店ブラックボード



組合長から共済窓口ボードコンテストの表彰を受ける秋元支店長

二ツ井支店の快進撃はもう一つ。JA共済秋田県本部が主催の「共済ブラックボード活用コンテスト」において、独創性が高く共済情報を分かりやすく提供するブラックボードを作製したとして特別賞に輝きました。

このコンテストは、JA共済窓口推進活動の活性化を目的に開催され県内13JAの各支店(所)がJA共済の内容をPRしたボードの中から選出されました。

全県No.1店舗に輝いた



二ツ井支店といつも明るい笑顔の支店職員

特別賞に輝いた二ツ井支店のブラックボードには同支店JAの藤田修二さんが大きく用いられたユーモアがあるもの。藤田さんは「看板犬、看板娘がいるように自分が看板に採用されて嬉しい。看板員として恥じないようJAの看板を背負った気持ちを常に持つて取り組んでいきたい。」と抱負を語ってくれました。

